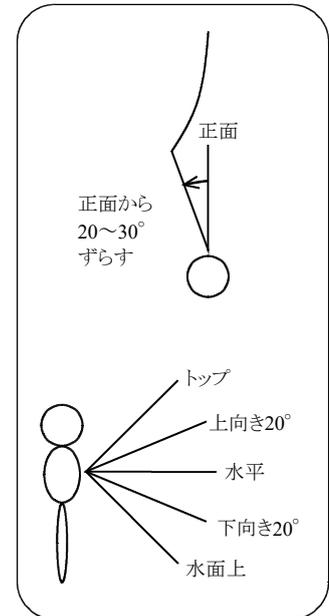


釣り方について考える (2017/9/5~2021/1/13の釣り日記からのまとめ) クランクの使い方

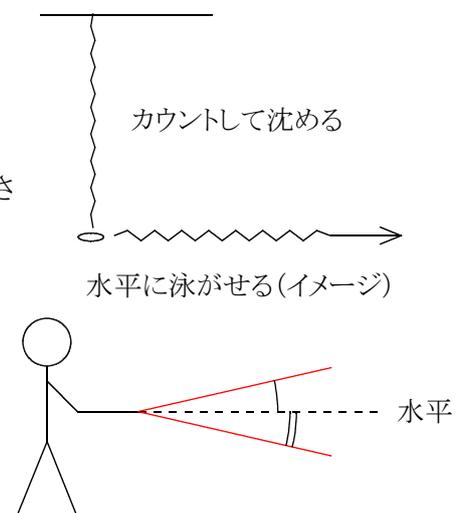
<クランクの使い方 - DVDより - > (2018/3/26)

- ・竿は、着水したルアーを正面に見て、右(または、左)に20~30° 傾ける。
- ・合わせは入れない。合わせは入れる必要はない。自然に掛かってくる。合わせた時にばれてしまうと、ルアーが飛び出してしまふ。合わせなければ、そのまま釣ればよい。
- ・クランクは表層から1.8mまでと割り切る。深く潜るために助走が必要であるからである。それより深いところは別のルアーで釣るとする。
- ・竿先の高さで泳層をきざむ。(フローティングの場合である。) DVDでは、頭の上から水中まで15に刻んでいた。細かく刻める方が釣果があがる。
- ・実釣してみて、自分は5つに刻むのがちょうど良いと思った。
- ・モカSS(スローシンキング)でも、竿先の高さで泳層が変わると感じた。泳ぎ方も変わると感じた。



クランクベイトのスローシンキング (2019/4/22)

- 宙層での釣り方が確立できた。
- カウントして釣る層を決める。その後、ゆっくりリトリブする。
ルアーが水平に泳ぐことをイメージして、ゆっくりリトリブする。
- モカDR(SS)の場合
ルアーが潜ることから、竿や水平よりやや上、竿先は顔の高さよりやや下にする。
- モカSR(SS)の場合
ルアーがあまり潜らないことから、竿は水平よりやや下にする。
※竿の上向き、下向きは水平を基準にしてほぼ線対称である。



【釣り方】 - 釣れたときの再現性を高める - (2019/12/20)

<竿とラインの位置関係>

竿とラインは一直線。竿先を左(または右)に少しふる(ずらす)ことはしない。巻き始めも一直線で、ルアーが手前に来てても一直線。常に一直線。これなら確実に再現できる。

<リトリブ・スピード>

○今日のリトリブ・スピードである。今日は活性が高かったというものの冬場である。超スローのリトリブ・スピードである。

ア) ゆっくりゆっくり巻く。「ゆっくりゆっくり」とつぶやきながら巻く。

イ) 巻き始めるとラインがピンと張る。巻きを止めるとラインが緩む。緩んだ分だけラインを巻き取るイメージで巻いていく。

ウ) 竿とラインは一直線であるが、若干、竿先を上げると、ラインがたるむ。そのたるみが一定になるように巻く。

エ) 風が吹くとラインがあおられる。ラインがあおられる分を巻く。ラインが風にあおられ、ラインに膨らみが出る。その膨らみが一定になるように巻く。

○表現は異なるが、ア～ウは同じリトリーブ・スピードである。

【合わせ】

○合わせは、竿先をさっと下に向ける、または、リールを1/3～1/4くらいグルッと素早く回す。

○これにより魚が乗らなくても、ルアーの泳層が変わらないので、そのままリトリーブを続けられる。竿先を上げて合わせて掛からなければ、ルアーの泳層が上がってしまう。

○竿尻を手前に引く方が素早く合わせられるかもしれない。この場合、ラインブレイクの危険性があるだろうか。この方法も、掛からなくてもルアーの泳層が変わらない。

【カウントする間】

○着水後すぐにカウントを始めるが、風が吹くとラインが風にあおられて、ルアーの沈む深さに影響する。これを防ぐために風があるときは、ルアーが着水したらすぐに竿先を下げ、ラインを水面に着けてカウントを行った。

○カウントの途中で当たるときがあった。特にプチモカSR(SS)ミドピィーノでは数回あった。沈んでいく途中で当たりがあるときはラインに変化がある。この時はできるだけ素早くリールを巻く。糸がふけているのでリールを巻くことで合わせる。

【カウントの数値】

○モカSR(SS)ミドピィーノ カウント10で連続ヒット(&ゲット)。当たらなくなったのでルアーチェンジ。プチモカSR(SS)ミドピィーノ カウント15で連続ヒット(&ゲット)。以上のことから、モカSR(SS)カウント10とプチモカSR(SS)カウント15は同じ深さと考えられる。

○同様に、モカSR(SS)カウント8、ちびパニクラDR-SSカウント10、ピコチャタクラDR-SSSカウント8で連続ヒットとなった。

モカSR(SS)カウント10 = プチモカSR(SS)カウント15

モカSR(SS)カウント8 = ピコチャタクラDR-SSSカウント8

= ちびパニクラDR-SSカウント10

【泳ぎが変わると釣れない】

○モカSR(SS)ミドピィーノ カウント10で連続ヒットしていた。モカDR(SS)ミドピィーノ カウント10で釣ったが釣れない。DRは巻くと沈んでいくことから、一定層を泳ぐように、竿先は水平やや上、または、目の高さにしてリトリーブした。当たったときもあったような気がするが、1尾もゲットできなかった。泳ぎが変わると釣れないということだろう。

○同じ泳層をリトリーブしても、ルアーの種類によって釣果が変わるということである。

【釣り方】 - 釣れたときの再現性を高める - (2020/1/19)

<竿とラインの位置関係>

○竿とラインは一直線。竿先を左(または右)に少しふる(ずらす)ことはしない。巻き始めも一直線で、ルアーが手前に来ても一直線。常に一直線。これなら確実に再現できる。

<リトリーブ・スピード>

○超低速リトリーブとは : 竿とラインは一直線であるが、若干、竿先を上げると、ラインがたるむ。そのたるみが一定になるように巻く。

○これにより、ついでにむような当たりでも、ラインが動くので分かる。グッと引くような当たりの場合は、手元に伝わらなくても、ラインが大きく動くので、これで合わせる。

<合わせ>

○柔らかい竿でも釣掛かりしやすいような合わせ方は、竿尻を手前に引くのがよいと考えるが、大型が掛かった場合、ラインブレイクの危険性がある。

○「肩を軸にして回転するように竿を引く」ことを試してみた。竿先がラインより下を向くことで大型が掛かっても、竿の曲がり度でラインブレイクを防ぐことができるだろう。

○この方法はなかなか良い。釣掛かりしなくても、ルアーは同じ層にいるので、そのままリリーブできる。

○更に釣掛かりをよくするためには、「肩を軸にして回転するように竿を引きながら、リールを少しでも回転させる」と良いのではないだろうか。

